

里山倶楽部活動記録

と き：平成 26 年 5 月 1 1 日（日） 9.30～15.30

ところ：青い鳥の谷および住民センター「こもれび」

参加者：延べ 2 5 人

内 容：その 1 「青い鳥の谷整備」 9. 3 0～1 1. 3 0

- ① 午前 9 時 3 0 分 エゴノキ広場に集合。
- ② 会長から趣旨説明の後、トレーナーの指導で準備体操をしたのち、散開して作業に取り掛かる。
- ③ 樹木の名札つけ・・・写真入りの大きな名札を用意して新規取り付けや取り替えを行う。
この機会にできるだけ名前を憶えるように指導があった。
- ④ エゴノキ広場周辺の整備・・・枯れ枝などの倒木が多数散乱していたものを、一か所に集め草を刈るなど、広場としての機能を向上させる。
- ⑤ 特にタニウツギが開花を迎えているので、鑑賞がしやすいように整地した。
- ⑥ 気温が上がってきたのでペットボトルの水がよく飲まれた。
- ⑦ ゴミの収集はごくわずかであった。

内容：その 2 講演「里山について」 1 3. 3 0～1 5. 3 0

- ① 午後 1 時 3 0 分 住民センター「こもれび」サロン 3 に集合
- ② 会長から前日の芦生ハイキングの例を引いての開会あいさつがあった。
- ③ 藤田稔さんの講演に入る。倶楽部創立以来の「里山」の考え方と活動の経過についてわかりやすく解説された。比叡平の特殊性、自生する樹木の種類なども詳しく説明された。
- ④ 講演後、里山倶楽部の応援歌に指定したポーランド民謡「森へ行きましょう」をみんなで歌う。やさしい歌なのでよく声が出ていた。
- ⑤ 参加者の中に通りがかりに看板を見てやってきた京都の女性がいた。つながりを広めるヒントになる。
- ⑥ 堆肥場の必要性、なくならないゴミ捨てへの対応なども話題になった。

（所見）五月晴れの暑いぐらいの気候の中、新年度の活動が始まった。これまでの活動は 2 時間が限度だったが、本日は拘束が長く少々疲れた。参加者が当初予定よりも少なかった。広報活動の強化の必要性を感じた。

（以上 文責田畑）



